

電気のふるさと



特集

「協働」と「連携」によるまちづくり② ～佐賀県玄海町の地域活性化事業～
◇6,000人の小さな町、が「ふるさと納税」を活用して
地域製品の発信と地域産業の活性化を図る

■わがまち自慢 ～町長室から～
青森県大間町

■電源地域振興トピックス
町の活性化と“再生”に向けた各地の取り組み

わがまち自慢 ～町長室から～

おお ま ま ち
青森県大間町
かなざわ みつはる
金澤 満春 町長



大間漁師の `心意気、と`生き様、

大間町といえば「マグロ」。全国どこへ行っても、「大間から来ました」といえば、「マグロの町ですね」と言ってもらえるようになりました。

「大間マグロ」は津軽海峡の荒波を回遊する近海物なので、冷凍物と比べると冬場の脂の乗り、サイズが全然違います。

もうひとつの特徴は、大間の漁師のこだわりである「一本釣り」漁法にあります。秋刀魚、イカ、飛び魚などの仕掛けを、あたかも泳いでるように流して釣るものです。一本釣りは、マグロ資源の枯渇が懸念される中でも、自然と共存できる漁法なのです。

一時、大間沖にマグロが回遊しなくなりました。その間もマグロ漁師は、大間を離れてマグロを釣り、技術を守ってきました。

昔は、船に記者やカメラを載せることは気が散るため、マグロ漁師は嫌がりました。しかし、NHK朝の連続ドラマ『私の青空』では、当時の組合長が快く引き受けてくれました。また、その頃から再び大間沖にマグロが回遊するようになり、「大間マグロ」のブランドが定着し始めました。

『天妃様』つながりで 台湾にPR

『天妃様行列』というイベントを海の日に行っています。

『天妃様』というのは中国の道教の『媽祖』のことで、漁師が信仰する神様

ですが、町内の稲荷神社に合祀されています。

大間町で『天妃様』がお祀りされているのは、昔、大間の沖船頭が海上での危難を助けられた神徳を崇めたことによります。

大間町の『天妃様』は、1696年、後にこの地の名主となる伊藤五左衛門により、茨城県的那珂湊からお迎えしたものとわれています。関東以北で『天妃様』をお祀りしているのは、大間町だけです。

1996年の遷座300年祭で、台湾で一番大きな天妃廟の北港朝天宮から、媽祖の像、行列の道具などを購入しました。以降、海の日に『天妃様行列』を行うようになりました。

対岸の函館には、台湾から年間20万人以上訪れています。そこで昨年9月、本年1月に台湾を訪問し、大間のPRを行いました。フェリーを利用して大間に入り、下北で宿泊していただく。自然、マグロ、天妃様を観光として楽しんでいただきたいとPRしてきました。

『大函丸』で 交流人口増加を目指す

町長就任後、一番大きな事業は、函館—大間航路の維持ならびに『大函丸』就航です。以前の運航会社は事業運営がうまくいっておらず、航路から撤退し、後を引き継いだ別の運航会社による函館—大間航路開設時には、大間町、青森県による事業支援をしました。また、老朽化したフェリーに替わる新造

船導入など、いろいろありましたが、町が造り、船の管理や運航は指定管理に出すということになりました。

なぜフェリーにこだわったかというと、この航路がなくなれば、下北半島と北海道の往来が遠回りになるためです。地元住民が利用するだけでなく客船でもよいが、交流人口を増やすことを考えると、車ごとの移動でなければ経済効果は得られません。これは、大間だけの問題ではなく、下北半島、道南、青森県全体の観光についても、大きなマイナス要因になります。

平成27年度末には、北海道新幹線開業になりますが、函館まで行った観光客に戻っていただくことも課題です。大間へのアクセスを問われた際、私は「函館空港を使ってください」と言っています。函館空港は便数も多く、乗り継ぎでフェリー出発までの待ち時間に函館観光もできるからです。

最後に、私が今、一番自慢できることは、町の活性化のために地元で頑張っているたくさんの人たちです。人間としては素朴ですが、おもてなしの心がきちんとあります。9月に入りますと、「日曜日はマグロだDAY」、10月には「大間超マグロ祭り」というイベントがあります。私たちは、イベントの時だけではなく、大間がいつも、マグロによる賑わいがある町にしていきたいとの思いでやっています。(談)



函館と大間を結ぶフェリー「大函丸」

大間崎にある彫像

毎年マグロ漁のシーズンが本格化する9～10月の日曜日に開催される「日曜日はマグロだDAY」。解体ライブショーと即売会で盛り上がる

毎年海の日に開催される～大漁祈願祭、天妃様行列



「協働」と「連携」によるまちづくり⑫
 佐賀県玄海町の地域活性化事業

「ふるさと納税」を活用して
 6,000人の小さな町が
 地域産品の発信と地域産業の活性化を図る



2

3

4

1

佐賀県玄海町では、「ふるさと納税」を「ふるさと応援寄附金」と呼んでいるが、平成24年度で480万円ほどだった寄附金が、平成26年度1月末現在で約10.5億円と、約220倍になり、全国の注目を集めている。今回はその事業を紹介する。



今年度1月末で
 10.5億円の寄附金を集める

全国各地で「ふるさと納税」が注目を集めている。

この制度は、任意の地方公共団体に2,000円を超える寄附を行った場合に、確定申告することによって、寄附金額から2,000円を差し引いた額が、所得税と個人住民税から控除・還付されるというもの。

平成20年4月の地方税法の改正により、地方公共団体への寄附金税制が拡充され、平成21年度から施行されている。その仕組みの詳細については割愛するが、平成25年度あたりから急激に寄附金申請者が増加した。納めた寄附金に応じて税金が控除・還付され、さらに寄附した地方公共団体の特産品などが、贈られてくる



5



6



7



8

『ふるさとチョイス』という、「ふる」といふことで、お
 得感に敏感な都市
 住民の注目度が高ま
 った結果といえる。
 そんな中、注目を
 集めているのが長崎
 県平戸市、佐賀県玄
 海町、北海道土幌
 町の3自治体。

- 【写真】 1 謝礼品として大人気の佐賀牛は、写真の(株)上場食肉などの事業者から送られる
 2 玄海町産の風味豊かなうにを塩漬けにした「生塩うに」
 3 脂の乗った「飯屋湾の真鯛」は天然ものにも負けない味
 4 程よく乗った脂と身の締まった肉厚のカンパチ。写真は(南渡水産)のもの
 5 豊かな土壌の上場台地で育った名産「さがほのか」。サイズの大きなものが贈られる
 6 こだわり農家で作ったみかん「うわばの夢」は甘さが自慢
 7 玄海町産黒毛和牛の自家製ハンバーグ
 8 旬の時期に合わせた、季節の玄海町産の野菜の詰め合わせ

■玄海町情報■

【人口】6,137人(平成26年12月31日現在)
 【面積】35.9km²
 【発電所データ】
 九州電力(株)玄海原子力発電所
 【本特集問合せ先】
 玄海町 財政企画課 ☎0995-52-2112

玄海町は鯛やハマチの養殖が盛ん。写真は仲卸業を営む(有)渡邊水産のハマチの水揚げ



■申請件数と申請金額の推移(平成26年度1月末現在)

| 年度 | 申請件数(件) | 申請金額(円) |
|--------|---------|---------------|
| 平成24年度 | 860 | 4,817,557 |
| 平成25年度 | 11,564 | 295,712,353 |
| 平成26年度 | 44,360 | 1,058,750,150 |

■平成26年度希望使途と申請額・納入住金額(1月末現在)

| 希望使途 | 申請金額(円) | 納入金額(円) |
|---------|---------------|-------------|
| 人材育成 | 147,958,469 | 126,018,469 |
| 医療及び福祉 | 224,619,751 | 214,639,751 |
| 自然及び環境 | 242,195,713 | 229,149,713 |
| おまかせ | 443,976,217 | 415,235,217 |
| H26寄付金額 | 1,058,750,150 | 985,043,150 |

「さと納税」を紹介するインターネット専用サイトがあるが、そのPV(ページ・ビュー)数の「ビッグ3」といわれているのが、この3つの自治体だ。PV数に比例して、寄附申請金額も驚くほど多い。平成26年度1月末の申請額で、平戸市が約13.2億円、玄海町が約10.5億円、上士幌町が約8億円と、他の自治体とは桁違いの寄附金を集めた。中でも玄海町は、左表にあるように、寄附申請金額を平成24年度に比べて約220倍に伸ばした。詳しくは玄海町のホームページ(www.town.genkai.saga.jp)を参照していただくとして、一口5,000円以上から100万円まで、7種の「寄附プラン」を用意して、それに対する謝礼の品としての地域産品も、バラエティに富んでいる。

「玄海町ファンづくり」と「地域産業の振興」を目指して

「玄海町は今まで、一次産品で注目を集めることはありませんでした。玄海町の産品は他地域に負けない大きな魅力を持っているのに、PRが下手だったのです。この制度は、そのため、恰好のツールになりました」と、担当の財政企画課主事の井上俊一さん(30歳)は語る。

平成24年に、担当となった井上さんは、この制度の持つ様々な課題を研究し、「地域産品の発信ツール」として絶好の手法であることと、事業を推進する町内の事業者の所得を少しでも向上させる機会であることとを確信する。

その事業目的を、単に寄附金を集めるだけではなく、「自らの地域を全国に発信することであり、多くの玄海町ファンを作ることと、この事業を通じて地域産業の振興を行い、生産者の所得の向上を目指すこと」とした。



玄海町 財政企画課 主事 井上 俊一さん



丹精込めて育てられた高品質の黒毛和牛

そのため、従来にも増して、町内の生産者や加工事業者との「連携の強化・拡充の必要があった。寄附申請者に対する謝礼の品が多様で、しかも、安定的に贈ることができるような供給ネットワークの形成が急務となったのだ。玄海町は『佐賀牛』で知られる肥育牛の産地であり、鯛やハマチ、トラフグの養殖でも知られ、土壌豊かな上場台地で生産されるイチゴやミカンの産地でもある。役場は、肥育業者、農家、養殖漁家、加工業者、町おこしグループなどに、この「ふるさと納税」の仕組みの説明を行い、協力を要請した。同時に、発信力の強化のために、インターネットサイトの『ふるさとチョイス!』との連携を図り、『Yahoo! 公金支払い』のクレジット決済を可能にした。さらに、役場の事務処理を簡素化するために、今年度は独自にPC処理システムを導入して、環境を整えていった。

役場の協力要請に、積極的に応じた事業者のひとり、世戸耕平さん(35歳)。創業40年の(株)上場食肉の専務取締役として、食肉販売の店と、焼肉レストラン「上場亭」を2軒経営する青年実業家だ。井上さんは、商品の安定供給によってリーズナブルな値段を可能にしている世戸さんのノウハウと、ネットワークに期待した。「以前から、町のために何かできないかと思っており、役場からお話があったとき、積極的に協力したいと思いました」と、世戸さんは言う。全国的に有名な『佐賀牛』の人気は高く、東京や大阪に販売したほうが儲かるのだが、あえて、『ふるさと応援寄附金』の謝礼の品に使ってもらうことを決めた。「結果は、目が回る忙しさになりましたが、申請者の皆さんの期待値が高く、とてもありがたいことです」そんな世戸さんに、井上さんは様々な相談をしている。後述する「クラウドファンディング」での日本酒造りのアイデアは、井上さんと町の将来を語り合ううちに出てきた。今後も世戸さんは、いろいろなアイデアを役場と協働して実現させていきたいと語る。



(株)上場食肉 専務取締役 世戸 耕平さん

「産品に自信はあったが、PRの方法がわからなかった」

玄海町は漁業の町でもある。仮屋湾や外津湾では、真鯛やカンパチ、トラフグ、ハマチの養殖が盛んだ。

仮屋漁協の筆頭理事を務める岩下巧さん(65歳)は、『仮屋湾の真鯛』のブランド化を進めている養殖漁家。こだわりの配合飼料で育てられた真鯛は、天然に近い色と肉質で人気が高い。

数年前から、都市の中学生を修学旅行で民泊させる「ATA(エリア・ツーリズム・エージェンシー)事業」を受け入れてきた。都会の子もたちが、魚に触れることができないことを残念に思っており、玄海町の魚の味に喜ぶ姿を見てきた。都会の人たちに「本当においしい魚を、もつと食べていただきたい」と、いつも思っていた。



仮屋漁協 筆頭理事
岩下 巧さん



(有)渡邊水産の脂の乗ったカンパチ



同じく(有)渡邊水産のハマチの水揚げ作業

そんなときに役場から事業協力の話があり、岩下さんは二つ返事で協力することにした。

「つまり、私たちが生産した魚に自信はあったのですが、PRの仕方がわからなかったのです」

40cmを超えるような、大きく高品質な鯛を安定的に供給するためには、町のためにも、玄海町の漁家がさらに努力することが必要だと、岩下さんは言う。

外津湾で鯛の養殖業と、ハマチ、カンパチ、ヒラマサなどの仲卸業を営む(有)渡邊水産の代表取締役の渡邊美保子さんも、「玄海町には良い産品がたくさんあるのに、町の知名度がない」といつも思っていた。

従業員でもある2人の娘さんから、「ネット販売」の可能性を模索して

はどうかという話もあった。

役場から、この事業の話がきたとき、「女性ならではの気配りで、お礼の品を届けよう」という娘さんたちの提案もあって、この事業に協力することにした。

漁業というのは、「男の仕事」というイメージがあるが、女性の視線で商品を消費者に届けられないかと思っていたのだ。そのために、贈答の魚を梱包する箱を改良して、綺麗なデザインで印刷した包装



謝礼品の包装にも女性らしい細やかな気配り(有)渡邊水産

町内のつながりが外部の人たちを呼び込む

同じく外津地区で民宿を営む飲食店組合長の溝上孝利さん(56歳)は、長い間、玄海町のまちおこしグループのメンバーとして地域活性化に尽力してきた。今回の事業では、仮屋湾の「鯛の塩焼き」を造る加工業者として参加している。

溝上さんも、お礼の品を送るときに、送られた側が「宝箱」を開けるような気持ちになつてもらえるよう、



紙に包んで送る。また、野菜の生産者と連携して「鯛しゃぶと野菜の鍋セット」なども考案した。「美味しかった。もう一度食べたい」という寄附申請者の声が嬉しいと渡邊さんは言う。「これからも、細かな気配りで、私たちの思いをお届けしていきたい。実感として玄海町ファンが増えていくと思います」

季節ごとに、折り紙や手製の箸袋などを同梱するような工夫をしている。「大事なことは、全国の皆さんに



民宿経営/飲食店組合長
溝上 孝利さん

(有)渡邊水産代表取締役の渡邊美保子さん(右)従業員2人の娘さん福園志麻さん(中)と渡邊志織さん(左)

民宿『要太郎』の「鯛の塩焼き」。季節ごとに折り紙などを同梱している



真心こめて丁寧な梱包を心がける(『要太郎』)

喜んでもらえるような良いものを作っていくことです。そのためには、生産者と加工業者による本音の意見交換が必要。人と人のつながりが強いところには人が寄ってくるのです」
溝上さんは町内のさらなる連携が、町外の人たちの賛同を呼ぶことを強調する。

「この事業で少し余裕が出てきました」と言うのは、玄海町農畜水産物加工所利用組合の代表・松本静江さん(60歳)だ。

有浦地区にある『ふるさと発想館』という加工場と直売所を兼ねる施設を管理する農漁村の女性グループの代表。12年前から、味噌や惣菜、こんにゃく、『イチゴ羊羹』などのお



玄海町農畜水産物加工所利用組合 代表 松本 静江さん

菓子、『イチゴジャム』などを作って販売してきた。

現在の組合員の数は51名。加工を担当する会員は17名だが、平均70歳以上と高齢化が進み、ここ数年は施設を維持するのがやっと、という状態だった。

この事業では、100万円の寄附『金のプレミアムプラン』を担当している。毎月3万円相当の町内の特産品を集めて発送する。本年度1月末で約290件の申請があったため、その作業は大変だが、「良いものを届けたい」という一心で、申請者の

様々な「リクエスト」にも対応している。その結果、少しずつだが事業収益が好転してきた。

「これで、生き延びることができるかもと思っています。後継者育成が急務なので、この事業で原資を作っていきたい。活動を始めてから12年間、生産者の人たちや役場とともに頑張ってきた甲斐がありました」と、笑った。



平成15年に整備された『ふるさと発想館』



直売所を兼ねる館内には玄海町の産品が並ぶ

玄海町ファンが 事業者と直結していく未来を見据えて

前述の財政企画課の井上さんは、玄海町が一定の成果を見ることができたのは、スピード感を大事にしたことだと言う。迅速に、事業者とのネットワークを確立したことやインターネット接続業者との連携、役場内の事務処理の簡素化を図ることによって、先行者メリットを享受することができた。

来年度から、この「ふるさと納税」制度はさらに拡充され、寄附する側の控除手続きも簡素化される。全国的にも、さらに寄附申請者が増加することだろう。

平成26年度1月末だけでも、約4万2,000件の寄附金申請者があり、玄海町を知る人は確実に増加してきている。町内の事業者の数も、現在の30事業者から、今後さらに増加することが予想される。

最近では、寄附額以上の価値を持つ謝礼品を贈る自治体もあり、こうした「謝礼品合戦」に苦言を呈する人もいる。玄海町では、謝礼品の、いわゆる「還元率」を35〜50%にして、常識の範囲内に抑えている。

ただ、このような「ふるさと納税ブーム」は永遠に続かないだろうと

いうことは、役場も事業者も十分理解しており、意外に冷静だ。

事業者が目指しているのは、この事業を契機として、消費者と生産者が直結すること。そのため、損傷を防ぐ「しっかりと梱包」を行い、自社PRのためのパンフレットを作成し、心のこもったお礼状などを必ず添えている。「産品に対する思い」や「心遣い」を徹底して大事にする。

また、役場も、贈答品に対する寄附申請者のメッセージや苦情は、必ず事業者にフィードバックして、この事業の「改善」を図っている。持続的に「生産者と消費者がつながっていく」方向を見据えているのだ。



玄海町の予防接種事業や子供の医療費助成など医療および福祉のために幅広く使われる



集められた寄附金は『グレードアップ学習塾』などの人材育成事業にも使われる



玄海町では平成27年度に『棚田サミット』の開催が予定されている

これを契機に 総合的なPR戦略の策定を目指す

集めた寄附金だが、その使い道として、玄海町が寄附申請者に明らかにしているのは、①人材育成事業、②医療および福祉、③自然および環境、④おまかせ、の4つ。申請者の希望用途の申請額はP.4の表にあるとおり。

基金として積み立てられた寄附金は、町の状況に応じて具体的な事業として使われている。現在、人材育成事業では、開設されている『グレードアップ学習塾』、医療および福祉事業では、義務教育の医療費無料の財源に、自然および環境事業では来年度に開催予定の『棚田サミット』事業など。

今年度から新しい事業として「クラウド・ファンディング」を開始した。「クラウド・ファンディング」とは、個別の事業に対する、インターネットなどを活用した資金調達をいう。第1弾は「玄海町の棚田米で造る純米酒」。500万円を集めて、純米酒4,200本とスパークリング清酒800本を唐津の酒造メーカーと連携して造る。この事業に賛同して寄附をした人々には、今年3月までかある日本酒1セットが謝礼として贈られる。



玄海町を代表する名所「浜野浦の棚田」

第2弾も進められており、今年3月に東京・築地で開催される『玄海町フェア』を『築地ボン・マルシェ』で行う予定で、この事業の賛同者を募り、300万円の寄附を集めた。今後の課題は、さらに「玄海町」を売っていくこと。

「これらの事業で、町が活気づいてきたことは実感としてあります。今後は、これをステップに、産品だけでなく、玄海町そのものを売っていく総合的なPR戦略を作成していくことだと思えます」と、井上さんは語った。豊かな産品を生み出す風土、そこ

に生きる人々…。今、この「6,000人の小さな町」は、全国に向けて、積極的に自らを語り出し始めた。その未来を多くの「玄海町ファン」が注目している。



「クラウド・ファンディング」の事業で、棚田米で造られる純米酒(左)とスパークリング清酒(右)



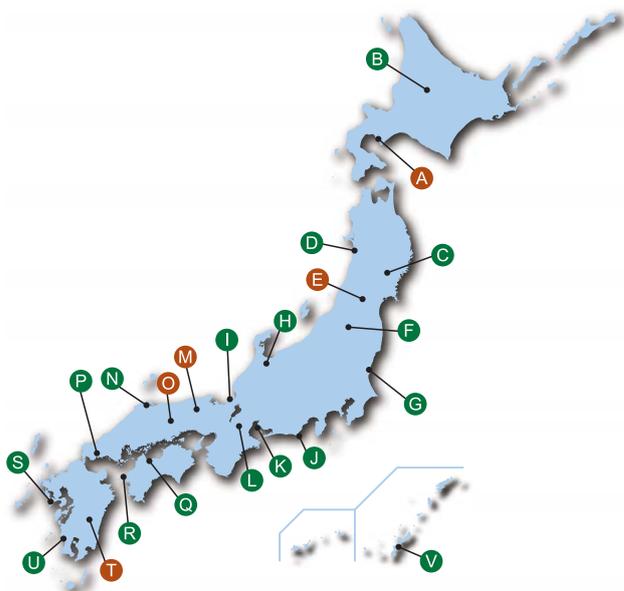
しっかりと、しかも細やかな気遣いの梱包で贈られる



謝礼品には必ずお礼状やパンフレットが同梱される

電源地域

情報ひろば



「電源地域情報ひろば」は、各市町村で開催されるイベント・伝統的なお祭りや、特産品などの情報をまとめて掲載するコーナーです。イベント・お祭りについては今回は4～6月の情報です。読者の皆様方で掲載のご希望がございましたら、電気のふるさと編集部までお知らせください。自薦、他薦を問わず受け付けています。なお、掲載費用が発生することはありません。(編集の都合上、掲載できない場合がございますことを予めご理解願います)

■地域振興部 振興業務課 電気のふるさと編集部
☎03-6372-7305 E-mail : furusato@dengen.or.jp

イベント ひがしかわちょう 東川町(北海道)

地図 B

旭岳山の祭り～ヌプリコロカムイノミ

アイヌ語で「山の神に祈る、山の祭り」を意味するヌプリコロカムイノミは、大雪山旭岳の山開きの儀式と登山者の無事と安全を祈願するお祭りです。

山の無事を祈るアイヌの儀式の後は、ダイナミックな踊りや民族楽器の演奏などを間近で楽しむことができます。

会場では国立公園の保全活動の紹介や、安全な登山のための装備展示などの展示もあります。

夜空に掲げる聖火は、旭岳の本格的な夏山シーズンの到来を告げます。

【開催日】6月20日(土) 【開催場所】旭岳温泉(旭岳青少年野営場)
【問合せ先】大雪山旭岳山の祭り実行委員会(ひがしかわ観光協会) ☎0166-82-3761
【URL】<http://www.welcome-higashikawa.jp>



アイヌの伝統儀式や舞踊を披露

特産品 だて 伊達市(北海道)

地図 A

米、糀、野菜とともに発酵熟成させた『マツカワいずし』

『マツカワ』(別名・タカノハ)は、カレイ科の魚で、白身の高級魚です。

現在、『マツカワ』の稚魚を放流し、保護育成を続けていますが、一時は乱獲の影響で漁獲量が激減したため幻の魚と呼ばれています。

伊達市が参加している「えりも以西栽培漁業振興推進協議会」では、同海域で漁獲された体長35cm以上の『マツカワ』に、『王鯨』という名前をつけ、ブランド化を進めています。

『マツカワいずし』は、肉厚で脂が乗った贅沢な味が特徴の『マツカワ』を3枚におろし、食べやすい大きさに切り身にして、米、糀、野菜と一緒に漬け込み、発酵熟成させたものです。

【問合せ先】株式会社中井英策商店 ☎0142-24-2934 [FAX]0142-24-2522
【URL】<http://nakai-shop.com>



肉厚で、贅沢な味

イベント あきた 秋田市(秋田県)

地図 D

とうほくろっこんさい 東北六魂祭

東北六魂祭は、東北6県の各県庁所在地の代表的な6つの夏祭りを一同に集めたお祭りです。

2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)の鎮魂と復興を願い、仙台市での初開催以来、今年度は第5回目として秋田市で開催されます。

東北六魂祭では、毎年テーマとなる漢字一文字を掲げています。2015年は、どこまでも高く立ち上がり、夕闇に輝く竿燈のように、どこまでも伸びていく東北の希望や実りが感じられる祭りにしたいとの想いを「輝」に込めて、開催されます。

【開催日】5月30日(土)・31日(日) 【開催場所】秋田市内
【問合せ先】東北六魂祭実行委員会 ☎018-866-6642
【URL】<http://rokkon.jp>



東北の心はひとつ、さらに前へ。

イベント いちのせき 一関市(岩手県)

地図 C

せんまや夜市

せんまや夜市は、昭和57年にスタートしたイベントです。平成23年で30周年を迎え、平成27年には、250回の開催を超える、この地域の風物詩です。夜市実行委員会では、毎回趣向を凝らしたイベントを開催しています。

お客様との交流を重視すること、イベント中心でお客様に夜市を楽しんでいただくことを念頭に開催され、まちの賑わい創出と、交流人口の増加に寄与しています。

せんまや夜市は、「平成22年度 地域づくり総務大臣賞」など、地域振興の表彰や、地域振興の事例として多数紹介されています。

【開催日】4～10月の第2土曜(4～6月の開催日 4/11、5/9、6/13)
【開催場所】一関市千厩町本町、新町商店街 【問合せ先】千厩夜市実行委員会 ☎0191-53-2735 【URL】<http://www.senmaya-yoichi.com>



千厩(せんまや) 地方で古くから伝わる『燈立(あかしたて)』

イベント **会津若松市** (福島県)

地図 F

會津十楽

洗練された南蛮文化の他、漆器や酒造りを奨励した蒲生氏郷公。「楽市」をさらに発展させた「十楽」という制度を城下に敷き、経済・文化振興を図りました。この制度を現代の会津若松市に再現する物産イベントが『會津十楽』です。



400年前の城下町を再現

南蛮寺をイメージしたブース“南蛮小屋”を並べ、時代衣装を身にまとったスタッフが当時の食文化を再現した「食楽」、匠の技を展示・販売する「匠楽」、お伽衆朗読劇や絵付け体験などの「興楽」などのコーナーで、タイムスリップしたかのような雰囲気を実現します。

【開催日】4~6月の毎週土・日および祝日 【開催場所】鶴ヶ城(会津若松城) 会津若松市追手町1-1 【問合せ先】サムライシティプロジェクト実行委員会 ☎0242-39-6539 【URL】<http://aizu-kyuraku.jp>

特産品 **山形市** (山形県)

地図 E

大学発の地域ブランド『aGarey(アガレイ)』

『aGarey』は、山形の“食べる”、“飲む”、“住まう”をテーマに、県内の製造業4社(製麺、酒造、抜型、紙器)が、東北芸術工科大学共創デザイン室のサポートを受けて作った異業種連携の地域ブランドです。



2014年1月、メゾン&オブジェ・パリに出展

山形は美味しい食材や日本酒で全国的に知られています。これらの産業に伴う商品パッケージの製作も盛んで、抜型製造業、紙器製造業などがそれを支えています。

『aGarey』では各メーカーが地元の素材と、優れた技術を生かした製品を世界に発信しています。

【URL】<http://www.agarey.jp>

イベント **砺波市** (富山県)

地図 H

となみ夜高まつり

「となみ夜高まつり」は、富山県砺波市の旧出町地区で毎年6月第2金曜・土曜の2日間に渡って行われる田祭りです。豊年満作、五穀豊穡を祝って行われます。



大行燈並び

2日目には『夜高行燈』を激しくぶつけ合い、押し合う「突き合わせ」が行われることから、喧嘩祭りとしても知られており、この時期に砺波地区各地で行われる夜高祭りの大トリを飾ります。

「となみ夜高まつり」は、北陸新幹線、北陸自動車道・高岡砺波スマートインターチェンジの開通により、アクセスしやすくなりました。

【開催日】6月12日(金)・13日(土) 【開催場所】砺波駅前周辺 【問合せ先】砺波夜高振興会(砺波商工会議所内) ☎0763-33-2109 【URL】<http://www.yotaka.jp/>

イベント **ひたちなか市** (茨城県)

地図 G

ひたちなかフラフェスティバル

「国営ひたち海浜公園」の水のステージを舞台として、多くのフラダンスを愛する方が集う、大型フラエキシビジョン「ひたちなかフラフェスティバル」が開催されます。



華麗なフラダンスのステージ

約1,000人が踊るフラダンスを潮風感じる花の楽園で楽しんでみませんか。

同日、「ひたちなか・大洗・東海PRの日」が開催されます。

地元の食を楽しめるブースや観光PRなど、近隣地域の魅力を、観て・触れて・味わって体感できるイベントです。

【開催日】5月17日(日)※入園無料 【開催場所】国営ひたち海浜公園 【問合せ先】ひたちなか市観光振興課 ☎029-273-0111 【URL】<http://www.city.hitachinaka.lg.jp/soshiki/34/>

イベント **御前崎市** (静岡県)

地図 J

御前崎みなとかつお祭り

「御前崎みなとかつお祭り」は、御前崎のかつおをはじめ、生しらす無料配布、新鮮な魚介類の販売など、海産物の祭典として開催されるイベントです。



旬の「かつお」を満喫できるイベント

御前崎魚市場内をメイン会場に、乗船体験など御前崎の海の魅力を体感いただけます。

また、この時期、市観光物産会館・なぶら館駐車場では、春の風物詩として「カツオのぼり」の大群が潮風を浴びて気持ちよさそうに泳いでいます。

『御前崎の海から贈り物。おいしいサカナとみんなの笑顔も大漁だ♪』をキャッチフレーズに、今年も開催されます。

【開催日】5月23日(土) 【開催場所】南駿河湾漁業協同組合 御前崎魚市場内 【問合せ先】南駿河湾漁業協同組合御前崎本所 ☎0548-63-3111 【URL】<http://fomaezaki.hamazo.tv/>

イベント **美浜町** (福井県)

地図 I

第27回美浜・五木ひろしまラソン

美浜町出身であり名誉町民である五木ひろしさんを招き、風光明媚な若狭湾国定公園の海岸線コースを、潮の香りを肌で感じながら楽しく走ります。

大会のコースは、日本の水浴場88選に選ばれた水晶浜の海岸線で、ロケーションは抜群です。

親子の部を除く各種目1~3位に、副賞として美浜町の特産品が贈呈されます。また、会場では美浜町の特産品を販売しています。

今回の参加者募集期間は終わりましたが、次回大会にはぜひ参加してみてください。

【開催日】5月10日(日) 【開催場所】美浜町丹生特設会場 【問合せ先】美浜・五木ひろしまラソン実行委員会事務局 ☎0770-32-6709 【URL】<http://mihamaituki-marathon.jp>



潮の香りを感じて走る

イベント 甲賀市〔滋賀県〕

地図 L

第8回 甲賀流忍者検定

『忍者検定』とは、甲賀流忍術発祥の地であり、忍者の里として知られる、滋賀県甲賀市が実施する「忍者」に関する知識を問う、ご当地検定です。

甲賀流忍術発祥の地「忍者の里甲南町」を広くアピールするとともに、隣接する伊賀市と共に「忍者の里甲賀・伊賀」をより多くの人にとっていただくことを目的としています。

また、昨年10月、2月22日（ニンニンニンの日）が「忍者の日」として、日本記念日協会にて認定されました。

来たれ！ Ninja ファン！！

【開催日】6月14日(日) 【開催場所】忍の里プラザ

【問合せ先】甲賀市観光協会・忍者検定実行委員会 ☎0748-60-2690

【URL】<http://www.koka-kanko.org>



日本の文化、「忍者」を伝承

イベント 知多市〔愛知県〕

地図 K

第10回ビーチライブin新舞子

スポーツや散歩、読書、お昼寝、海水浴、採れたての海の幸を堪能。

誰もがビーチを十分に活用し、そして通年集い、満喫する。そんな楽しい海辺文化を「ビーチライブ」と呼んでいます。

5月の爽やかな日差しに、海がキラキラと輝く新舞子マリナーパーク。ビーチで楽しむ家族や子ども達、また、「新舞子deビーチバレー」の参加者、物産展などで賑わいます。

「ちびっこ運動会」では、ビーチリレーやビーチ綱引きなど、転んでも痛くない砂浜の上で、子供たちが目いっぱい楽しめます。

【開催日】5月下旬(予定) 【開催場所】新舞子マリナーパーク

【問合せ先】知多市役所 商工振興課内「ビーチライブin新舞子」事務局 ☎0562-33-3151

【URL】<http://www.city.chita.lg.jp>



季節を問わず海辺で遊ぼう！

イベント 松江市〔島根県〕

地図 N

ゴーストツアー

闇夜……。

小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）が再話した「怪談」ゆかりの地を訪ねるツアーです。

地元の語り部が静かに、想いを込めて皆様を怪談の世界にご案内します。松江の夜の魅力を再発見してみましょ。日没時刻10分前に松江城の観光案内所を出発し、松江市内の怪談の舞台となった地を、約2時間で廻ります。

闇を見つめることは、自らの五感を磨くことにもなり、灯りの溢れた現代社会に暮らす私たちにはとても新鮮なものになるでしょう。

【4～6月の開催日】4/18、4/25、5/2、5/9、5/16、5/23、6/20、6/27

【問合せ先】NPO法人松江ツーリズム研究会 ☎0852-23-5470

【URL】<http://www.matsue-tourism.or.jp/ghost-tour>



怪談の宝庫、松江市

特産品 養父市〔兵庫県〕

地図 M

江戸時代から続く名産「朝倉山椒」

江戸幕府開府から約400年。養父市八鹿町が原産地で、今も大切に守られているのが「朝倉山椒」です。大粒で渋みが少なく、まろやかな辛味と爽やかな香りが特徴。但馬の名産として、古くから珍重されてきました。醤油や味噌で煮詰めた佃煮などの加工品にされています。

『JAたじま』や但馬地域の関係行政機関では、「朝倉さんしょ（朝倉山椒のブランド名）」の生産振興を行っています。また、料理コンテストを開催し、知名度アップと消費拡大に努めています。

【問合せ先】JAたじま営農生産部営農課 ☎079-662-4145

【URL】<http://www.ja-tajima.or.jp>



江戸時代、幕府に献上

イベント 宇部市・美祢市・山陽小野田市〔山口県〕

地図 P

宇部・美祢・山陽小野田産業観光バスツアー～大人の社会派ツアー～

「宇部・美祢・山陽小野田産業観光バスツアー」は、山口県中西部に位置する宇部市及び美祢市、山陽小野田市の隣接した3市が共同で行っているツアーです。

本地域は、これまで周辺の他市と比べて知名度のある観光資源がないことから、観光地としての認識はほとんどありませんでしたが、地域内に埋もれていた素材を活用し、産業によるCSR（企業の社会的責任）ツアーが誕生しました。

また、この取組で、「第7回産業観光まちづくり大賞」において銀賞を受賞しました。

【開催日】6～12月予定（ツアー日程は下記のHPをご参照下さい）【問合せ先】宇部・美祢・山陽小野田産業観光推進協議会 ☎0836-34-2050 【URL】<http://www.csr-tourism.jp>



宇部興産伊佐セメント工場石灰石鉱山

特産品 美咲町〔岡山県〕

地図 O

幸せの黄色い定食～『黄福定食』～

郷土出身で明治を代表するジャーナリスト岸田吟香が、卵かけご飯を愛好し日本に広めたとの説があります。卵の黄身のイメージと、食べるとなんだか懐かしく幸せな気分になれるということから、美咲流「たまごかけごはん」を『黄福定食』と命名。素材は、産みたて卵に、町自慢の棚田米、特製の専用たれ、味噌、漬物、さらには器に至るまで、とことん「美咲町産」にこだわりました。

『食堂かめつち。』の『黄福定食』は、町の文化と歴史を詰め合わせた、シアワセ定食です。

【お店】食堂かめつち。（岡山県久米郡美咲町原田2155）

【問合せ先】美咲町役場 産業課 ☎0868-66-1118 【URL】<http://misakikoufuku.com>



黄福定食が食べられる、『食堂かめつち。』

イベント い かたちょう 伊方町 (愛媛県)

地図 R

もお〜モオ〜フェスティバル

もお〜モオ〜フェスティバルは、伊方町高茂高原を会場に、毎年4月29日に行われるバーベキューイベントです。

『高茂牛(黒毛和牛)』1頭分の「バーベキュー」をメインに、町内外からの参加者と一日楽しむ交流の場となっています。

手ぶらで来て大丈夫。会場にはバーベキューセットを用意しており、飲み物もあります。

会場では、農産品や地元の加工品販売と併せて、楽しい手作りのアトラクションもあり、大人も子どもも楽しめるイベントです。

【開催日】4月29日(水・祝) 【開催場所】伊方町高茂高原(大和ハウス工業さだみさきリゾート内) 【問合せ先】伊方町役場瀬戸総合支所 ☎0894-52-0111 【URL】<http://www.sadamisaki.com>



手ぶらで、お手軽に!

特産品 さいじょう 西条市 (愛媛県)

地図 Q

名水と温暖な気候が育んだ『絹かわなす』

『絹かわなす』は古来より品種改良されることなく、愛媛県西条地区だけで自家消費用に栽培されてきました。栽培が難しいため、生産農家も少なく、県内での販売でした。

その特徴は、大ぶりでやわらか、果肉はジューシーで甘みがあること。火が通りやすいので、厚めに切って焼きなすや天ぷら、漬物にも適しています。名水百選に選ばれた西条の沸き水『うちぬき』と温暖な瀬戸内の気候が育んだ、なすということです。

愛嬌のある丸なすで、皮が絹のようになめらかなことから、この名前がつけました。

【問合せ先】JA西条 ☎0897-56-1800 【URL】<http://www.ja-saijyo.or.jp/>



大ぶりで、やわらかい果肉

特産品 ゆのまえまち 湯前町 (熊本県)

地図 T

無添加の味噌漬物『市房漬』

市房漬とは、湯前町の各家庭で味噌づくりを行った際に、野菜を味噌の中に漬け込んで、味噌漬けにしていた食文化を受け継ぎ、地元で生産された収穫物をメインにつくる「野菜の味噌漬け」のことです。

厳選した野菜を使い、味噌も外部調達ではなく、自前で製造しています。

現在、市房漬に使用している野菜は、大根、人参、きゅうり、しょうがの4種類。

「家族みんなが安心しておいしく食べられる母の手作りの味」をモットーに作られています。

【問合せ先】農事組合法人下村婦人会市房漬加工組合 ☎0966-43-3827 【URL】<https://www.facebook.com/shimomura.fuzinkai>



母の手作りの味

イベント ながさき 長崎市 (長崎県)

地図 S

2015長崎帆船まつり

長崎帆船まつりは、港町長崎に国内外から、大型を含む数々の帆船が集結する、日本で随一の帆船イベントです。

期間中は帆船が真っ白な帆を広げる「セイルドリル(操帆訓練)」、船内を見学できる「船内一般公開」、帆船に乗って長崎港内をクルーズする「体験クルーズ」など、帆船をメインとしたイベントの他、カヌー、ロープワーク(縄結び)教室などの体験型イベントなどもあります。

国内を中心に、海外からの帆船も長崎港に集結します。その風景は港街長崎ならではのです。

【開催日】4月25日(土)~29日(水・祝) 【開催場所】長崎市長崎港(長崎水辺の森公園、出島ワープ周辺) 【問合せ先】長崎市コールセンター「あじさいコール」 ☎095-822-8888 【URL】<http://www.city.nagasaki.lg.jp/hansen/>



帆を広げた帆船の優雅な姿

イベント うるま市 (沖縄県)

地図 V

春の全島闘牛大会

沖縄県うるま市で開催される「春の全島闘牛大会」は、沖縄闘牛界のオールスターが勢ぞろいするビッグイベントです。

沖縄では闘牛のことを「ウシオーラセー」と言い、古くから娯楽として親しまれています。なかでもうるま市は、県内随一の闘牛どころです。

闘牛場で1トンを超える牛同士が激しくぶつかり合う姿は迫力満点です。

今年は、「春の全島闘牛大会」の前日(5月9日)に、「全国闘牛サミット記念闘牛大会」が行われるので、2日連続の開催です。

【開催日】5月10日(日) 【開催場所】うるま市石川多目的ドーム 【問合せ先】うるま市商工観光課 ☎098-965-5634 【URL】<http://www.city.uruma.lg.jp/6/5170.html>



迫力満点の勝負(提供:うるま市)

イベント いちき串木野市 (鹿児島県)

地図 U

串木野まぐろフェスティバル

串木野まぐろフェスティバルは、いちき串木野の基幹産業である「マグロ」の消費拡大とPRを図ったイベントです。

会場は、「いちき串木野市まぐろ本町」にある串木野漁港外港。

特産の冷凍マグロの販売、市内飲食店が集まり共同開発した、マグロの舵取り(尾身)を使った「マグロ舵取り丼」などを味わえる食のコーナーや、マグロ握り寿司振舞い、地元物産展が開催され多くの来場客で賑わいます。

マグロが丸ごと1本当たる大抽選会など、マグロづくしの2日間です。

【開催日】4月25日(土)・26日(日) 【開催場所】串木野漁港外港 特設会場 【問合せ先】串木野まぐろフェスティバル実行委員会(鹿児島まぐろ船主協会) ☎0996-32-2181、いちき串木野市水産商工課 ☎0996-32-3111



マグロ握り寿司振舞い



復興の始発駅、JR女川駅・ゆぼっぼ開業

電源地域 振興トピックス

町の活性化と“再生”に向けた各地の取り組み

このコーナーでは電源地域各地の地域振興に向けた話題を取り上げています。今回は、東日本大震災から4年、宮城県女川町の「まちびらき」の開催と福島県が主催するディスティネーション・キャンペーン、それに石川県志賀町の『西能登おもてなし丼』の話題をご紹介します。



新 生女川が「まちびらき」を開催

“あの日”から4年、女川町はいよいよ3月21日に、女川駅周辺の「まちびらき」を迎えることになった。小誌が発行する頃には、すでに記念式典を終えているので、

その様子を伝えることができないのは残念だが、復興に向けて、幾多の辛苦に耐えながら歩んできた、女川町民の皆さんの思いが、ひとつの形になって現れるのは大変喜ばしく、お祝いを申し上げたい。今回の「まちびらき」

宮城県女川町

は、中心部の復興事業で最初の大型施設となる、温泉温浴施設『ゆぼっぼ』とJR女川駅の開業を記念したもの。



大震災以来不通となっていたJR石巻線浦宿〜女川間が運行再開し、女川駅も再建され、かつては駅に併設されていた『ゆぼっぼ』も新たに生まれ変わった。その周辺も、民間施設である『フューチャーセンター』や水産業体験館『あがいんステーション』、『地域交流センター』や『物

産センター』などが、これ以降、続々と整備されていく。

駅前広場から女川湾に続く、プロムナードに隣接するテナント型の商店街には物販、サービス、飲食等の様々な業種の店舗が入居予定。年末には新しい町が生まれることになる。今回オープンした、女川駅と『ゆぼっぼ』の一体型施設は、ウミネコが羽ばたく様子をイメージした曲線を描く大屋根が特徴。世界的建築家の坂茂氏が設計した。海へ続くプロムナードに合わせ、新しい町のシンボルとなる。施設は鉄骨造り一部木造3階建てで、延べ面積は899.51㎡。1階は駅機能と温泉施設の受付、2階が浴場、3階には海を見下ろす展望デッキを設けて、誰もが無料で女川湾と町を一望できるものとなっている。

2階の浴室壁面には、日本画家の千住博氏が原画を手掛けたタイル画、休憩室には、全国から寄せられた花のイラストと千住氏の絵を融合した、デザイナーの水戸岡鋭治氏による1枚の巨大なタイル画

が彩る。アートの持つ創造性で、地域コミュニティの再生と地域活性化を図る狙いとなっている。

女川町の復興事業は、瓦礫撤去に始まり、高台の切り土造成と、被災地低地部エリアの盛り土造成、インフラ整備と非常に大規模なものだが、複数の事業を同時進行で行うという、非常にタイトなスケジュールで行われている。

この間、住民や行政の努力は大変なものかと推測されるが、今回の「まちびらき」によって、大きく前進し、新しく生まれ変わる女川町に、改めて拍手を送りたい。



女川町にぎわいの拠点



プロムナード(遊歩道)を核に、“街”がつけられる



〔上〕見栄えの良さを図る「アドバイス&撮影会」を実施
〔下〕町民全体で「おもてなし」の具現化を学び・検討・推進する研修会



西 能登おもてなし井で、町のさらなる知名度アップを

石川県志賀町

石川県志賀町では、『西能登おもてなし井』という新たな産品開発を進めている。これは、町産の食材を3分の1以上使う条件のフードメニューで、町の観光協会が認定するもの。町内18の飲食店などが、合計40品目を提供している。

資源エネルギー庁の『地域のじまんづくりプロジェクト』のひとつで、昨年度から、観光協会や飲食店組合、行政などが、一体となって事業展開をしてきた。

本年度は、主に広報展開を実施し、TV・新聞などマスコミへの周知や、町外のイベントなどで、『西能登おもてなし井』をアピール。同時に、「おもてなし」の具現化を学び・検討・推進する研修会や、「アドバイス&



今年度で作成した総合パンフレット



撮影会」などを実施して、推進する事業者の意識向上を図った。

昨年比べて、事業を展開する店舗数は8軒から18軒に増加し、メニュー数は10から40に伸びた。事業効果は確実に現れてきている。

今年度作成された総合パンフレットでは、志賀町自慢の海産物や農作物などを盛り込んだ井を一品ずつ紹介している。

農家や漁家が、「おいしさの秘密」などを語って、志賀町の食材をアピールするなど、読み物としても楽しめる内容だ。

今年は、北陸新幹線の開業に合わせて、首都圏からの多くの観光客が来町することが期待される。志賀町は、この『西能登おもてなし井』とともに、さらなる知名度アップを目指している。

福 島ディスプレイネーションキャンペーンが始まる

福島県

ディスプレイネーションキャンペーン(以下DC)とは、北海道から九州までのJRグループ旅客6社と、指定された自治体、地元の観光事業者等が協働で実施する、キャンペーンのこと。福島県の、PRDCはすでに昨年開始されているが、本番は4月1日から6月30日まで。県下各地で、様々なイベントや特別企画が催される。

昭和53年から始まったこのキャンペーンは、国内では最大級のもので、受地となる地元観光関係者と自治体側は、観光資源の掘り起こしや磨き上げ、地域イベントの開催、おもてなしの充実などの体制を整備し、JR側は開催地を全国に集中PRすることで全国からの送客を図るもの。福島県としては、東日本震災の復興のアピールと風評被害の払拭、観光素材の掘り起こしとブラッシュ

アップなどで「福島ファン」を増やすことや地域経済の活性化を目指す。これを機に、キャンペーン終了後も継続できる観光推進体制の確立を大きな目的としている。

具体的には、「福が満開、福のしま。」をキャッチコピーにかかげて、県全域をひとつのエリアとして展開、全県版の総合ガイドブックを大量に印刷するほか、「花」「温泉」「歴史・文化」「人」などテーマごとに全県を楽しめる企画を実施する。

例えば、県内各地に隠された宝箱を探す体験型の宝探しゲームや、県内の花の名所のスタンプラリーなどから、『小原庄助のんびりプラン』と銘打ち、県内温泉施設約100ヶ所で「朝食・朝酒・朝湯」が楽しめるプランなどが企画されている。専用ホームページ <http://dc-fukushima.jp/> が開設されているので、さらに詳しい情報が取得できる。



「小原庄助のんびりプラン」のパンフレット



2015年4月~6月
ふくしまディスプレイネーション
キャンペーン開催



News

第44回電源地域振興担当者講習会を開催しました

平成27年1月16日(金)、東京・築地のJJK会館で、第44回電源地域振興担当者講習会を開催いたしました。冒頭、当センターの平成26年度事業についての説明を行いました。続いて、経済産業省地域経済産業グループ地域経済産業政策課から「地方創生事業を活用した電源市町村の活性化について」の説明がありました。この中で、地域経済の現状を、具体的な数字を挙げて分析していただき、まち・ひと・しごと創生本部が推進している、「長期ビジョン・総合戦略」が示されました。



講習会風景



地域ブランド・コンサルタント
金子和夫氏

そして、地域の「しごと」を、どのように創生するかについて『地域経済分析システム』の活用のお勧めと産業振興メニュー等の政策説明がありました。昼食休憩後、資源エネルギー庁電力基盤整備課から「平成27年度電源立地対策費に係る予算について」の具体的な説明がありました。

その後、地域ブランド・コンサルタントの金子和夫氏から「地域ブランドを活用した地域産業の成長戦略」と題した講演がありました。

金子氏には、地域ブランドの定義や地域資源の再評価、キーパーソンの発掘、事業者間の連携、販路の開拓などについて、各地の事例を紹介しながら、具体的な地域振興のヒントや手法など、広範囲にわたる内容の講演をしていただきました。

出席者にとっても、経済産業省や資源エネルギー庁からの来年度の具体的な政策説明や、金子氏の講演など、内容の濃いものとなりました。

【お問合せ】総務企画部 総務企画課
☎03-63372-7311



News

今年度第3回「2・4食の相談商談会」を開催しました

当センターでは、地域資源のブランド化を支援することを目的に、各地域で生み出された特産品の開発・改良と販路拡大につながる「産品相談・商談会」を、実施しています。

本年2月4日(水)、福岡市内で今年度の最後となる第3回目の「相談・商談会」を開催しました。

当日は、百貨店等のバイヤー6社7名が、アドバイザーとして、自らの商品を持参した7事業者に対して面談を行い、個別にアドバイスを行いました。面談では、商品の評価から、商品改良、販路開拓、パッケージなどのデザイン



面談の様子

などについて細かなアドバイスが行われ、参加事業者の皆様から、事後アンケートにおいて、次のような評価をいただきました。

「バイヤーの対応がよく、次のステップへ有効なアドバイスとなった」や「効率的な面談ができる商談会だった」、「様々なバイヤーの意見を聞くことができた」などで、中には、催事への出店の話をバイヤーから勧められた参加事業者もありました。

【お問合せ】地域振興部 振興業務課
☎03-63372-7305

ホームページ：www2.dengen.or.jp/html/works/hanbai/sanpin.html
eメール：hanbai@dengen.or.jp



**本年度最後となる
研修事業を行いました**

平成27年2月25日(水)、26日(木)の2日間、当センター会議室で本年度最後の研修事業である「地域ブランド戦略を学ぶ」が開催されました。

初日は、まず、観光プラットフォーム推進機構会長であり立教大学観光学部兼任講師の清水慎一氏の「観光地域づくりとブランドディング」と題する基調講演があり、続いて、参加者によるワークショップが行われました。この中で、清水氏は観光の現状を分析し、キーワードとして「人と人とのつながり」を挙げ、息の長い観光振興を訴えました。

2日目は、「一般社団法人八ヶ岳ツリーズムマネージメント」理事長の小林昭治氏と、「銀座NAGANO」あわせ信州シェアスペース」所長の熊谷晃氏による講演がありました。小林氏には八ヶ岳観光圏における広域連携事業の取り組みを、熊谷氏には長野県の「信州ブランド戦略」における首都圏戦略の取り組みを紹介していただきました。

参加者からは、「ブランドについての認識を改めることができた」というものや「今回学んだことを活かし、個性あふれる町づくりに取り組みたい」という感想が寄せられました。

【お問合せ】地域振興部 振興業務課
 ☎03-6372-7305
 ホームページ：www2.dengen.or.jp/html/works/kensyu/index.html
 メール：kenshuu@dengen.or.jp



研修の様子



今号のWebアンケート
プレゼント

「電気のふるさと」編集室では、今後のより良い誌面作りのため、Webアンケートを実施させて戴いております。多くの皆様のご意見をお聞かせいただければ幸いです。

なお、アンケートにお答えいただいた方の中から抽選で2名の方に、今号の「わがまち自慢」で、ご紹介した大間町の、「海産物詰め合わせセット」をプレゼントいたします。

■アンケート回答方法

当センターのホームページ（文末参照）の入力フォーム内のアンケートにご記入のうえ、「送信」ボタンを押して送信してください。

×切は平成27年5月30日（土）。当選の発表は発送（平成27年6月下旬予定）をもって代えさせていただきます。

【お問合せ】電気のふるさと編集室
 ☎03-6372-7305
 ホームページ：www2.dengen.or.jp/html/leaf/furusato/enquete.html



海産物詰め合わせセット

第5回
「電気のふるさと」
 フォトコンテスト
 を実施中!

★★★★賞および賞品★★★★

最優秀賞 1点 旅行券3万円分

優秀賞 2点 旅行券1万5千円分

※入選された作品は当センターのホームページ「電気のふるさと～電源地域ニュース～」で紹介する予定です。

募集内容

テーマ (1)「電気のふるさとの風景写真」
 (2)「電気のふるさとの暮らし(生活風景・行事・イベントなど)」
 撮影対象(電源地域)市町村は、建設準備中・工事中・運転中の発電所等が所在する市町村とその周辺市町村のことです。詳細は当センターのホームページ(<http://www2.dengen.or.jp/html/area/>)「電源地域とは」を参照ください。

応募方法

- 写真と応募用紙の両方を送ってください。
- カラーまたは白黒プリント、2L(キャビネ版)またはA4サイズとします。
- 必ず規定の応募用紙に必要事項を記載の上ご応募ください。
- 写真プリントは、応募用紙と必ずセットで送ってください。
- お一人様3点までの応募とします。なお、1枚の応募用紙で応募できる写真は1枚です。

応募資格

日本国内に在住の方に限らせていただきます。

受付期間

平成26年10月1日～平成27年9月30日(当日消印有効)
 必ず郵送で応募してください(メール便不可)。郵送以外では受け付けいたしかねます。
 ＊注意事項他の詳細は当センターのホームページ(<http://www2.dengen.or.jp/html/works/photocon/>)をご確認ください。

送付先・お問い合わせ先

〒103-0012
 東京都中央区日本橋堀留町二丁目3番3号(堀留中央ビル7階)
 (一財)電源地域振興センター 電気のふるさと編集室
 TEL:03-6372-7305(平日10～17時)
 FAX:03-6372-7301
 E-mail:furusato@dengen.or.jp

詳細はフォトコンテストのホームページをご覧ください

電気のふるさとフォトコン

検索

電源地域 振興センター事業

活用例 紹介

電源地域振興センター事業紹介

当センターは、電源地域の産業振興や人材の育成をはじめ、さまざまなソフト事業を総合的に実施することにより、「電気のふるさと」の活性化をお手伝いしています。詳しくは当センターHP (www2.dengen.or.jp) をご覧ください。

■研修事業



電源地域の長期的かつ自立的な振興をお手伝いするため、研修事業を行っています。研修テーマは、協働によるまちづくり、企業誘致による地域活性化、農水業の活性化、少子高齢化対策、地域ブランド戦略、海外研修等、地域の活性化に関わるニーズの高いテーマで、実施しています。

☎ 振興業務課 ☎ 03-6372-7305
✉ kensyuu@den-gen.or.jp

■専門家派遣事業



地域支援助成事業として、電源地域の抱えている課題の克服や、問題の解決に向けて、専門家による現地指導（現状確認・アドバイス・情報提供等）を行います。対象とする事業分野は問わず、支援の形態も講演会、実務指導など、電源地域のニーズにあった形で対応いたします。

☎ 振興調査課 ☎ 03-6372-7306
✉ senmon@den-gen.or.jp

■相談事業

電源地域のニーズに迅速・的確にお応えするため、当センターが行っている各種事業の活用方法や地域振興の先進事例に関し、情報や資料などの提供を行っています。

☎ 振興業務課 ☎ 03-6372-7305
✉ soudan@den-gen.or.jp

■商品相談・商談会事業 および商品実践販売事業



電源地域の地域資源を活かした特産品の販路拡大を目的に、流通パイヤーとの面談の機会を様々な形で創出し、開発・改良・販路についての具体的なアドバイスを受けることができます。定期開催型、地元開催型、随時開催型の3タイプとなっています。また、特産品を都市圏の百貨店等においてテストマーケティングを行う実践販売事業も実施しています。

☎ 振興業務課 ☎ 03-6372-7305
✉ hanbai@den-gen.or.jp

■特産品支援事業

「商品相談・商談会」と「商品実践販売」に新しく「アドバイザー（パイヤー）との意見交換」を組み込んだセット型の支援事業として実践型ツアーを実施しています。

☎ 振興業務課 ☎ 03-6372-7305
✉ hanbai@den-gen.or.jp

■調査・広報事業

当センターの基幹的事业として、以下の事業を行います。

1. 設立目的に沿った国等が行う委託事業
2. 企画提案活動を中心とした自治体等が行う委託事業
3. 調査事業や産品販売促進などで電力会社等が行う委託事業
4. 必要に応じて多様な形態やテーマの事業

☎ 振興調査課 ☎ 03-6372-7306
✉ chousa@den-gen.or.jp

■企業立地支援事業

- 原子力発電施設等周辺地域
企業立地支援事業

原子力立地地域における雇用機会の創出と産業振興を図るため、雇用の増加を生む企業に対して、一定期間にわたって、企業の支払った電気料金等に基づき、道府県が給付金を交付する制度の審査等を行っています。

☎ 立地審査課 ☎ 03-6372-7307
✉ ritti@den-gen.or.jp

●企業誘致支援サービス事業

企業のニーズに合わせて、様々な情報提供を通じて、電源地域の事業計画の推進に協力いたします。企業誘致・立地促進支援に関する情報提供・広告PR活動、新規立地意向企業の把握、企業誘致支援・連携協力活動、企業導入計画調査の実施などを行っています。この事業は複数顧客対応型で行っております。

☎ 振興調査課 ☎ 03-6372-7306
✉ yuuchi@den-gen.or.jp

■原子力立地給付金等交付事業

原子力発電施設等の周辺地域の住民・企業等に、原子力立地給付金の交付を行っています。交付対象地域は、原子力発電施設等の所在市町村、特定の隣接市町村・隣々接市町村で、交付単価は原子力発電施設等の設備能力等によって決められています。また、加算給付金の交付も行っています。

☎ 給付金審査課 ☎ 03-6372-7309
✉ kyuufukin@den-gen.or.jp

■「電気のふるさと」発行事業

先進事例の特集や地域からの情報発信の支援を行うなど、電気のふるさと応援マガジンとして情報提供を行っています。

☎ 振興業務課 ☎ 03-6372-7305
✉ furusato@den-gen.or.jp

■その他の事業

その他、電源地域振興担当者向けに国の電源立地政策、地域振興事例などの最新情報等を内容とした講習会の開催や、電源地域の市町村のサービス提供事業、東日本大震災で被災した市町村の要請に基づく、復興支援ソフト事業なども行っています。